



# 生徒主導の『生徒指導規程の見直し』に挑戦!

美土里中学校

MIDORI Junior high school

『生徒指導規程』について生徒から聞かれた気になる言葉。それは「大切なのは分かるけど面倒くさい」「校則はいるとは思うけど簡単にすべきだと思う」「今の文章では分かりにくい」。自分たちにとって本当に必要な校則ってなんだろう。そんなみんなが疑問に思っていたことを全校生徒で考えました。



参観日に開催した討論会の様子

### これまで

生徒が自分自身の生活をよりよくしていくことにつながっていないのではないか。

### 見直すメリット

生徒が自分たちの生活に主体的に関わることができる。自分で考え、判断する力が育つ。

### 見直しの流れ

1. 生徒会を中心に週2回の検討会を実施。
2. その意見をベースに各クラスで時間をとってアンケート・個人面談を実施。
3. 参観日に保護者へ取り組みを紹介し、討論会を開催。
4. 試験的に実施。



田中 義大先生

**頭** を一番悩ませたのは、生徒みんなの声をどうやって吸い上げていくか。個人面談なども交えて、1・2学期を費やして完成させました。今回の取り組みを機に、生徒たちが能動的に動くようになったと感じています。自分たちが決めたルールを自分たちで守っていこうという、自己指導能力も芽生えてきたように思います。



生徒会長  
増田 梨花さん

**私** はこれまで正直『生徒指導規程』を見たことがありませんでした。この機会に初めて見て、感じたことは「言葉が難しく理解できない」「今の時代に合っていない」。言葉を変えたり、柔らかい表現をするなどの工夫も必要だと思いました。生徒全員が納得して生活できるような規程に、自分たちで作りたいです。

**規** 程の見直しを行う前から、変なルールだなと感じていたところがありました。何で靴下がくるぶしの10cm以上、上じやないとダメなのか。防寒着にパーカーを着たらダメなのかとか。自分たちが変だと感じるものを、正直に話し合っていきたい。自分たちで作ったものだから守ろう!とみんなの意識改革につながったと思います。



生徒会 副会長  
田下 心遥さん

**規** 程をちゃんと読んだのは、今回が初めて。検討会ではみんな意見が違ってとても面白いと思いました。今回の活動を機に、規程が私たち生徒にとって身近なものになったと思います。取り組みを進めていくほど、もやもやしていたものがすっとしていく感覚を覚えました。みんなが同じ気持ちだと嬉しいです。生徒会として携われて楽しかったです。



生徒会 総務  
藤本 康二くん

# 教育現場で新しい取り組みがスタートしています!

10年ぶりに学習指導要領が改定され、教育現場では時代に合わせた新しい取り組みが始まっています。変化の激しい時代。将来、何事にも自主的・主体的に取り組み、決まった答えのない問いに、自ら答えを出そうとすることができる子どもたちを育てるための取り組みが、市内全小中学校でスタートしました。テーマは「当たり前を見直す」。今年度、新しい取り組みにチャレンジした2つの学校の活動を紹介します。

子どもの可能性を伸ばす  
家庭・地域・学校が連携して  
子どもを育てる  
安芸高田協育



## 美土里中学校

### テーマ 生徒指導規程の見直し

生徒たちが入学した時からある『生徒指導規程』。これまで生徒たちは、「決まりだから」とそれほど疑問を抱かずに守ってきました。その『生徒指導規程』は、今の自分たちにとって本当に必要なものなのか、必要な決まりは何なのか、それぞれの思いや意見を取り入れながら、「自分たちの学校は自分たちでつくる」をテーマに生徒会が主導して見直しました。

【生徒指導規程】  
児童・生徒が安心して充実した学校生活を送るという観点から必要な事項を定めたもので、「校則」も含まれます。

## 高宮小学校

### テーマ 家庭学習の充実

先生が出した課題をみんなが同じようにやって来る。それがこれまでの『宿題』の常識。児童それぞれ、得意・不得意は違うはず。児童自身が自分の強みや弱みを理解し、自分に必要な学習を自分で考えることで、自ら考え行動する力を育みます。